

時代の要請に応える保育者養成研究

——実習施設へのアンケート調査のまとめ——

丸山 京子・山崎 桂・仲野 悦子・林 秀雄

Some Information through Questionnaire of Kindergartens, Day Nurseries and Institutions for Welfare regarding Practical Training

——for Better Practical Training for Responding to Diversified Needs in Welfare——

Kyouko Maruyama · Katsra Yamasaki · Etsuko Nakano · Hideo Hayashi

Summary

In this paper we surveyed the concerns of kindergartens, day nurseries and institutions for welfare regarding practical training and compared those with students' one for this. The analysis of 26 kindergartens, 22 day nurseries and 36 institutions for welfare.

The results are showed as follows;

- 1) Many kindergartens, day nurseries and institutions for welfare require higher quality to the students.
- 2) Both those and the students have the same consciousness of practical training.

Recieved Oct. 31, 1998.

Key words: practical training diversified need

はじめに

新しい世紀を目前にして、幼児教育、児童福祉に関わる様々な動きが相次いでいる。昨年児童福祉法が改正され、今年の4月から改正児童福祉法が施行された。また、教員免許法が今年7月に改正され、相前後して教育課程審議会から「幼稚園、小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校の教育課程の基準の改善について」の答申が示された。幼稚園教育に限れば、昨年11月には「時代の変化に対応した今後の幼稚園教育の在り方について」の最終報告が調査研究協力者会議¹⁾から提出された。この報告を受けて近い将来には幼稚園

教育要領の改正が行われることになっている。そうなれば、保育所保育指針の改正も行われることになるだろう。

前回の幼稚園教育要領の改正が四半世紀を経てのものであったのに対して、今回の改正はたかだか約十年を経過してのものであり、子どもの育ちをとりまく環境の変化がいかにもまぐるしく、深刻、緊急であるかを示すものといえる。

児童福祉法の改正の眼目の一つは、多様な保育ニーズへの適切な対応を施設、および職員（保母等）に求めていることである。特に、子育て支援・子どもの自立を支援する保母（保育士）²⁾への期待は益々大きくなってきている。すなわち、保母としてのより高い資質、専門性が求められているといえる。一般的には、保母に求められる資質として保育への情熱と使命感、成長発達についての専門的知識・技術、子どもへの深い愛情、豊かな教養、それらに裏打ちされた実践力等が考えられる。さらにこれからの時代に求められる資質として、多様な保育・福祉ニーズに応えることができる能力、また家庭における子育て上の問題の早期発見と解決の援助をすることができる能力などが上げられる。

また、中央教育審議会の答申等³⁾から、これからの学校教育を「生きる力」の育成へと転換する方向性が示されている。これは、今までの学校教育を大きく転換するものであり、現状の学校現場での様々な問題への対応とも相まって、教員の資質の向上が必然的に求められている。このことは、幼稚園教育も例外ではない。現行の幼稚園教育要領の基本的な考え方は、幼児の自発的な活動としての遊びを中心とした生活を通して、一人ひとりの特性に応じた総合的な指導を行っていくことであり、さらに自ら学び、自ら考える能力や豊かな人間性などの「生きる力」の育成を幼稚園教諭にも求めている。

このように、幼稚園教諭・保母（保育士）に対して今まで以上に高い資質と専門性が時代の要請としてある。このことは保育者を養成する我々養成機関に席を置く者に対する大きな課題と責任として受けとめなければならない。教員免許法の改正に伴う養成機関での教育課程の改革・改編を受けて、これからの保育者養成のあり方について大いに、しかも早急に議論・検討をしていかなければならない状況にある。

II 目 的

養成校において高資質の保育者養成をめざす教育課程の検討の中で、いわゆる学外実習のあり方、内容等については特に重要な問題であると考えられる。学外実習について、その期間の拡大、実習の内容・種類の充実化を求める声はあっても、逆の議論はない。高い資質と専門性を身につけるために実習の果たす役割は大きなものがあり、実習指導の一層の充実が要求されている。

このような現状を踏まえ、養成側の我々自身の実習指導のあり方に対する真摯な議論・検討をすることと同時に、学生、及び受け入れ施設の声にも耳を傾けることが必要である。そ

ここで、これまでに学生の実習に対する意識、要望・要求等を調査してきた⁴⁾。実習の主役である学生の生の声を聞くことができ、実習指導へ大いに生かすことができた。今回は実習生を受け入れていただく施設側（幼稚園、保育所、児童福祉施設⁵⁾）の養成校の実習指導に対する忌憚のない声を聞き、今後の実習指導に生かしていきたいと考えた。

III 調 査

1) 調査時期および調査対象

1997年11月から12月にかけて、アンケートによる調査を行った。対象施設は、本学の幼児教育学科学生が実習でお世話になっている施設とした。幼稚園26園（アンケート依頼園58園、有効回答率44.8%）、保育所22園（アンケート依頼園65園、有効回答率33.8%）、児童福祉施設30園（アンケート依頼園36園、有効回答率83.3%）であった。

2) アンケートの内容

今回実習施設にお願いしたアンケートは、以下のような内容である。

(i) 幼稚園・保育所へのアンケートの内容

- ①実習期間について、②実習の受け入れ時期について、③実習生としての心構えについて、④学内での事前学習について、⑤本学の実習指導への要望などとなっている。

(ii) 児童福祉施設へのアンケートの内容

- ①実習期間について、②実習のあり方（特に、宿泊の有無について）、③1日の実習時間について、④宿泊施設について、⑤宿泊施設の設備について、⑥実習中の諸実費について、⑦オリエンテーションの時期について、⑧観察日誌について、⑨持ち物について、⑩厨房実習について、⑪O-157の検査について、⑫実習の評価について、⑬本学の実習指導への要望、⑭施設が望む人材について、などである。

なお、アンケートの内容については、資料として最後に添付したので参照されたい。

IV 結果及び考察

1 幼稚園実習に関する園側の意見

幼稚園実習は本学の学生にとって初めての实習ではあるが、園側は毎年同じ立場の学生を受け入れることになる。前回は学生へのアンケート調査を実施し、実習に関する意識を考察したが、今回は園側へのアンケート調査を実施し、学生へのアンケート調査と比較しながら考察を試みた。

(1) 実習期間について

① 適当と考えられる実習期間

	1週間	2週間	3週間	4週間	1年間
幼稚園数	0	11	11	3	1
割合	0%	42%	42%	12%	4%

実習期間についての園側の意見は、さまざまではあるが、日数としては2～3週間が妥当な期間としている。2週間が妥当と思われる理由には実習生の体力、緊張感の持続に重点を置く考えからである。3週間が妥当と思われる理由としては2週間でやっと慣れたところで終わるのではなく、次の1週間で更に担任から助言を受けたり相談をしながら、知識と経験に基づいた実習が展開できるという理由からである。また、実習を十分にこなしておくことで就職して保育者になったときスムーズに職場に入ることが可能という理由があげられていた。

② 実習中の休・祭日にもなう補充の扱いについて

実習期間中の実習日数は、週休・祝日などによって変わる。日数にこだわる考え方には、初めから何週間と期間を決めるのではなく日数としてカウントする意見もあった。その他、実習生の希望により補充実習を受け入れるという実習生の自主性を尊重する意見や大学側との話し合い及び大学側の意向で決めるという園もみられた。

③ 学生アンケートとの比較

学生アンケートの「実習中、園の指導について不満な点はどんな点ですか」の質問に対し2週間の実習期間はとても短い。子どもたちに慣れた頃に終了してしまうという不満もアンケート調査の結果に出ている。このような意見から、現在の2週間という実習期間は、園側も、学生側も短いと感じていることがわかる。実習期間としては、連続して3週間以上が望まれるところである。

(2) 実習の受け入れ時期について

◎ 受け入れやすい時期

4月		5月		6月		7月		8月		9月	
前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半
0	0	3	12	16	13	3	2	0	0	3	5

10月		11月		12月		1月		2月		3月	
前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半
8	11	12	11	4	1	4	8	6	4	1	0

◎受け入れにくい時期

4月		5月		6月		7月		8月		9月	
前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半
18	15	7	3	0	0	5	10	16	17	12	6

10月		11月		12月		1月		2月		3月	
前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半
6	3	5	3	6	10	6	4	6	13	19	21

実習期間の受け入れに関するアンケート結果は次のようである。受け入れやすい時期としては、5月後半から6月後半、10月、11月である。これは園側としては、特別な行事もなく子どもの一日の生活の流れも安定している時期である。反対に受け入れにくい時期は4月、8月、9月前半、12月後半、2月後半、3月である。これは、一年の流れからみても入学、夏期休暇、卒業などの行事があり、園側では何かと忙しい時期と思われる。

学生アンケート調査結果の中で「園の行事を控えた時期の実習は、保育者も忙しく保育者とのコミュニケーションがとれず、雑用が多くなったり、子どもとも遊べなかった」という内容のコメントがある。学生側の立場も理解出来るものの行事に関する雑用も保育者の役割の一部として受け止めるように導いていかなければいけないと考える。

(3) 学生（実習生）の心得について（園側の記述内容を以下に示す。）

(服装) ・保育者にふさわしい清潔で動きやすく、汚れてもよいものが望ましい。

例えば、トレーナー・ジャージなどが一般である。

・髪は清潔面からもまとめるのが望ましい。

(行動) ・園側の方針や保育の流れなどをいち早く理解し、前向きな姿勢が望まれる。

具体的には、子どもたちに目を向け元気よく挨拶や言葉がけをし、いつも明るく笑顔を忘れないことである。

・動きは敏速に受け身にならない事。

・指導された事はいち早く行動に移し保育の中に生かされなければならない。

(態度) ・実習生は保育者を希望することを前提としてもらいたい。

・実習生は実習目標をもち子どもの目線に立って話が出来心構えが必要である。

・実習生は、挨拶、言葉掛け、言葉使いなど基本的なマナーや、明るい積極的な態度が必要である。

昨年度の学生アンケート調査の「幼稚園実習に関して後輩にアドバイスするとすればどん

な点ですか」に対して「健康管理・笑顔を絶やさない・挨拶をする・積極的に実習に取り組む」との調査結果がでている。

このような結果は、学生が受け止めている思いと園側の要望とは、ほぼ同様であることを示す。

(4) 事前の学習への要望について

①園側の要望（園側の記述内容を以下に示す。）

- ・教材面では、子供の年齢を踏まえた遊び（折り紙，紙芝居，歌，手遊び，外遊び，集団遊び）などの準備をする。
- ・音楽面では、まずピアノ，オルガンが弾け、園生活に必要な曲，行事の曲など、あらかじめ弾けるように練習する。
- ・日誌，指導案の書き方において、基本的なことは書けるようにしておく。
- ・実習に対する目標を持つことや観察する目を養うためにも、日頃から子供と触れ合う場を積極的に持つこと。
- ・幼児の怪我と病気を理解し処置の仕方を知っておく。

園側の意見は実習がより充実するためには、より多くの事前学習が望まれるという事である。

②本学の事前実習指導の現状

- 1) 学内の指導として、ビデオ教材を利用して幼稚園を理解する。
- 2) 保育現場の教師を招いて園児の生活、実習の心構えや注意点などの話を聞く。
- 3) 2～3人グループごとに面接指導をし、話し方や態度など基本的な事を学ぶ。
- 4) 実習経験した2年生に実習体験やアドバイスを語ってもらう。
- 5) 積極的に実習に参加するためにまず実習の目的をよく考えさせ、簡単な教材作り、指導案や実習日誌の書き方、紙芝居や絵本の読み方などを指導する。

③学生アンケートとの比較

学生アンケートの「園の指導について、とても参考になった点はどんな点ですか」の問いに対して「はさみの使い方，絵本，紙芝居の読み方，手遊び，野菜の栽培」「危険への配慮，けんかした時の対処の仕方，笑顔での対応，日誌の書き方」などが参考になったとある。

学生は、現場の中に入って始めて事前学習の大切さ、重要さを感じるのである。園側の事前学習で要求されている内容は、学生が「園の指導について、とても参考になった」というアンケート内容とほぼ一致する。また、子どもの健康管理には、注意をし怪我，病気などの種類や内容はある程度理解し、処置の仕方も知っておかなければならない。

教材面に関しては、学生のアンケートではほぼ100%の学生がなんらかの教材を用意をしているという結果が出ている。この100%とは絵本，紙芝居，手遊び，人形などのどれかひ

とつの教材に対して学生が用意をしていると答えた数字である。それに対し、園側の要望は、数多くの教材及びその教材内容の充実面での100%を要望しているのである。

(5) 実習指導への要望について（園側の記述内容を以下に示す。）

- ・実習をするという姿勢は、まず自己の健康管理が出来ることである。
- ・実習期間中、子どもたちとより多く接するためにも、教材面、音楽面、知識面など幅広いの知識を身につける。
- ・一日の保育の流れを学習するため、週案、日案、日誌などの書き方は、基礎学習として学んでおく。
- ・教育機器に携わる回数も多くなるため、ある程度の機器の操作技術を身につけておく。
- ・音楽面では、行事の曲、園の曲、童謡などの弾き歌いが出来る事。
- ・子どもの年齢別の発達、特長、心理状態を理解しておく事。

このような要望が寄せられた。

保育職は肉体的にも、精神的にも大変な仕事であり、なによりも健康である事が求められる。従って、平素の規則正しい生活に留意する事も忘れてはならない。ひとりの人間の成長にとって一番大切とされる幼児期教育に携さわる保育者を育成するには、実習という経験を通して具体的・実践的な学習を深めていかなければならない。今後、園側（現場）との連携をより深め、将来保育者を目指すものとしての基礎的学習を具体的に、より効果的に実践できる実習指導のあり方を検討していかなければならない。

2 施設実習に関する園側の意見

施設実習は、児童福祉施設、精神薄弱者援護施設で、入所者と共に生活をし実践訓練を通して、専門的な知識や技能を学び施設を理解する実習である。これらの施設では入所者は心身に障害のある人、家庭環境上に問題のある児童で、個々に必要な養護、介護、訓練を受けその人にとって最善の処遇を保障するところである。施設実習の経験は、保母（保育士）としてコミュニティの中の福祉施設の現状を理解する上でよい機会である。

(1) 実習期間について

	10日間	1週間	2週間	その他
施設数	24	1	5	0
割合	80%	3%	17%	0%

保母（保育士）資格を得るための学外実習として保育実習（保育所実習 2 週間、施設実習 10 日間）を設け履修することになっている。実習期間についてのアンケートの結果は、施設での実習期間は 10 日でよいが 80%、次いで 2 週間が適当であるが 17% を占めている。短期間では十分施設を理解することができないので 2 週間は必要であるという考え方がある一方で、学生の精神的、肉体的な疲労度から 10 日間が適当であるとする意見とに分かれる。10 日間が 8 割を占めたことは、宿泊による施設実習で実習生の健康面に、十分配慮した結果であると考えられる。

(2) 実習のあり方（宿泊実習など）

	宿泊実習がよい	通勤実習がよい	学生の希望宿泊
施設数	24	4	2
割合	80%	13%	7%

実習は、宿泊でなくてもよいのではという意見がある。一方宿泊実習がよいが 24 施設 80% であった。主な理由は、施設のある場所が通勤に不便な所が多い。変則的な勤務で早番、遅番があり夜 10 時となる場合もある、入所者の一日の日課を知るために宿泊がよい、などがあげられる。交通の不便な施設が多く、事故などの問題があるので原則として宿泊することで受入れている施設が多い。

通勤実習がよいとする主な理由は、宿泊設備が十分整っていないというものであった。児童の状況や、職員の指導体制を考えると通勤による実習がより現実的であるというものであった。施設の種類、入所者の状況、職員の指導体制、施設の場所等によって宿泊の有無が異なるので施設との連携を密にして実習計画を作成する必要がある。

(3) 1 日の実習時間について

	8～9 時間	9～10 時間以内	10～11 時間
施設数	23	5	2
割合	77%	17%	6%

各施設の勤務体制や援助内容が異なっていることもあって意見が分かれている。具体的には、労働基準法に基づいた 8～9 時間がよいが 23 施設 77% で、少しでも多く体験をしてもらいたいので 9～10 時間を指導計画にしているが 5 施設 17% がある。さらに、10～11 時間が適当とするが 2 施設ある。8～9 時間の施設が最も多いことは、学生の緊張、不安など健康

面が考慮されていると理解する。

(4) 宿泊施設について
宿泊場所

	ゲストハウス	寮の一部を利用	事務棟を利用	その他
施設数	15	7	2	6
割合	50%	23%	7%	20%

宿泊の場所として「ゲストハウスがある」が15施設50%。寮の一部を利用しているが7施設23%である。事務棟を利用しているが2施設、その他自立促進ホームが2施設、宿泊設備なしが4施設20%といった状況である。施設では宿泊設備に努力されているが施設予算が厳しく設備がおくれているためと理解する。

(5) 宿泊施設における設備について

ゲストハウスには、宿泊設備として冷蔵庫、冷暖房、風呂など日常生活に必要な器具は整っている。寮の一部を利用している施設や事務棟を利用している施設では十分ではない。施設側としては、実習生を暖かく受け入れたいので予算要求をしているが、施設予算が厳しいので今後も要求を続けていきたいという方針の施設が多い。実習生の宿泊場所の確保について特別に配慮されていると理解する。

(6) 実習費について

ゲストハウス施設利用規定に基づいて徴収をされているところは13施設である。

寮の一部や事務棟で宿泊している場合は無料のところが多い。給食費については26施設が1日810円～1,275円の範囲であり、施設の種類で額が異なっている。その他6施設で光熱水費として、7施設が参考図書代として1,000円～3,000円を徴収している。実習に要する費用は、施設の種類や指導内容によって異なることは当然である。

(7) オリエンテーションの時期について

	2ヶ月前	1ヶ月前	10日～2週間前	その他
施設数	3	12	14	1(当日)
割合	10%	40%	47%	3%

実習前10日～2週間前が14施設で、1ヶ月前が12施設あり、2週間から1ヶ月前が適当と考えられている。意見として「施設オリエンテーションは必要であるので全員が参加するよう指導されたい」、「日時については、学園側の日程通告でなく、お互いに連絡調整の上、決定していくことが望ましい」とする施設が多い。施設オリエンテーションの意義を学校で十分指導し参加させてほしい等要望がある。実習に参加する重要性を認識するための事前指導が求められている。

(8) 観察日誌について

各種の施設があって、それぞれの施設から多くの意見がある。「各短大の独自性を尊重しているので現状でよい」(6施設)とする施設もあれば、「短大の様式に多少の変更を加え利用している」とする施設もある。

観察日誌の記入について

- ・入所見に働きかけをして、その反応をどうとらえ、理解したかという過程を書くとうい。
- ・必ずボールペンで書く。一日の実習の感想や質問などを書く。
- ・記録で利用者の名前は直接書くのではなく例えば「Aさん」として記述する。

などの意見が寄せられた。

事前指導では、観察日誌の書き方は共通する内容で指導しているが、施設の種類によって異なるので各施設での指導に負う部分が多い。

(9) 実習に必要な持ち物について

宿泊に必要な一般的な日常必需品でよい。施設によって厨房実習、リハビリ訓練、プール指導に参加する場合もあるが、施設オリエンテーションで持ち物についての指示がなされている。たとえば、厨房実習では三角巾、リハビリ訓練では、運動や作業のしやすい服装を用意する。その他、常備薬、生理用品、衣紋掛け、石鹸、帽子、スリッパ、国語辞典、健康保険証、夏は水着、冬は防寒具(スキーに参加)を必要とする施設がある。実習中は特に清潔、衛生面において十分な配慮と協力を実習生に求めている。

(10) 厨房実習について

	実習している	実習していない	希望があればする
施設数	7	23	3
割合	23%	77%	

「実習生には厨房実習は重要で必要がある」ので実施しているとするのが7施設あった。「特に必要がないので実施していない」とする施設が23施設77%を占めている。実施の理由は、「児童養護施設は労働の範囲は衣食の家事労働が基本である。」、「成人施設の調理内容は特別食（糖尿病、肥満、成人病）など施設給食を理解する上でよいので実施している。」児童施設と成人施設によっても意見が分かれるが、施設職員として衣食を理解することは専門職員として当然である。

(11) O-157の検査について

腸内細菌検査

	必要あり	必要なし	社会の状況のみて実施する
施設数	9	3	18
割合	30%	10%	60%

施設実習を行う場合には、腸内細菌検査結果証明書を提出することが義務づけられている。O-157の検査については、「必要である」が9施設30%、「必要なし」が3施設10%、「社会の状況のみて実施したい」が18施設60%を占めている。大勢は社会の状況のみて実施するとしている。必要ありとする意見として、「幼児、虚弱、障害児の施設は感染を受けやすい幼児が多いため、伝染病の病気には最大限留意をしているので実施を求めている。施設と連携を密にするなかで社会の状況に応じた対応が必要である。

(12) 実習の評価について

実習の評価は施設側から多くの意見や提案がある。現在の「優、良、可でよい」が16施設53%を占めている。施設側の提案として①5段階がよい、②A良い・B普通・C努力を要する・D不適合の4段階、③4ランク項目、A養育態度・B研究心・C養育者としての素質や適性・D入所児への理解度といったものがあつた。評価のあり方についての意見としては、「積極性のない学生には不可の評価をした方がよい」、「短い実習期間なので評価するのは大変難しい」、「慣れるにしたがって積極性がでる実習生、実力を出せないまま不完全燃焼で終わる実習生もいる」、「慣れない環境の中で過ごす大変さを考えると可の評価はつけにくい」、などがあつた。施設側としては、各大学で評価基準が異なっているので統一的な評価は、今後養成校の間でも検討の必要性があると思う。

(13) 実習指導への要望

(施設側の記述の内容を以下に示す。)

- ・実習に対する真剣な取組みの重要性を一人一人に自覚させてほしい
- ・知的障害児施設の基本的な知識を事前に学習させてほしい。
- ・実習に参加する態度について 例 言葉使い、服装、態度、ポケベルなどについて指導をしてほしい。
- ・単位取得のため仕方なく実習している学生がいる。
- ・事前実習として実施されている学生の体験発表、施設から指導員を招いての講話、実習前異なる施設を見学されていることは、重要でスムーズに実習参加ができるので今後も継続されたい。
- ・学生の実習態度は施設に関心をもって積極的に努力をされている。
- ・感想文では実習で得たものが非常に多くあったことをのべているので、指導に力を入れたい。

(14) 施設が望む人材について（施設側の記述の内容を以下に示す。）

- ・入所者とともに生活ができる人。
- ・施設勤務は特殊な勤務体制をとり不規則で変則的である。勤務の内容も厳しいもので本当に子ども、人間が好きでないと勤まらない。自分をかなり犠牲にして施設のため、子どものために頑張れる人。
- ・福祉系の教育課程終了は当然であるが、福祉に熱心、誠意、実践のある人。
- ・豊かな人間性のあの人、明るい性格、笑顔、社会的な常識、暖かい思いやり、人の痛みを理解する努力ができる人。
- ・健康で入所者と生活を共にすることができる、受容、共感、信頼されるよう努力できる人。
- ・職員間の協調性を大切にす。愛情と奉仕の精神、やる気がある人が望ましい。

施設職員として望ましい専門性、人間性を求められている。よき助言者を育てる養成校の責任は大であることを痛感する。

施設についてのアンケートは、7種類の施設から本学の実習指導に対しての意見や要望が寄せられた。事前指導として取り上げる項目は、実習の心得、施設の知識、実習記録の書き方、一般常識などについて。実習受入れ施設では、宿泊場所の確保や指導職員の配置について配慮されている。実りある実習ができるよう施設と本学との連携を密にし施設の意見や要望に添った援助指導をしたい。

3 保育園実習に対する園側の意見

本学では、保育園実習は殆どの学生が幼稚園実習や施設実習を終え、最後の実習として子

どもたちと関わり、保母としての保育経験を体得したり、乳幼児保育や長時間保育など多様なニーズに対応した保育、家庭や地域との連携をめざす保育現場を知るよい機会である。

(1) 実習期間について

	1 週間	2 週間	3 週間	その他 3 週間以上
保育園数	1	16	3	2
割合	4%	73%	14%	9%

本学では、保母（保育士）資格を得るために「保育実習Ⅰ」の中で、2週間の保育所実習を行っている。実習期間を2週間が適当であるとする保育園が73%あり、大半の園が園側の指導体制や学生の実習内容を総合的にみて2週間を妥当な期間としてみている。保育園側にとっても「子どもの性格や能力を知るためには2週間程度の期間がよい」とし、「1週間で保育園の様子を把握し、残り1週間で実際の保育を体験し自分の実習目的に向けて勉強する」ために2週間が妥当であるとの回答が多かった。

3週間が適当としている意見は、「現在行っている期間は短い」としている。「実習の流れとして1週間目には子どもと思いきり遊び、保母の動きや時間配分、保育の仕方などを観察したり質問したりしながら少しずつ理解する。2週間目には保育の流れや子ども一人一人の育ちが少し見えてくるので、保育の一部をまかせてもらい実際保育をやってみる。3週間目には子どもたちにも随分馴れ、年齢・個々の育ちにそった保育など少し理解できるようになり、担任と相談・助言・援助を受けながら自分で週案・日案を立て、一日の保育を行うことができるため」というものであった。「3週間あれば、実習生は失敗しながらも自分自身で保育を試みることで保育のおもしろさ、すばらしさや楽しさ、そして大変さを体験できるのではないか」といった意見もあった。

また、3週間以上の実習期間が必要としている保育園もあるが、現状としては2週間の期間のなかで有効に実習するのが望ましいとしている。

(2) 実習の受け入れ時期について

《受け入れやすい時期》

4月		5月		6月		7月		8月		9月	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1	1	1	6	13	15	14	14	10	10	4	1

10月		11月		12月		1月		2月		3月	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1	5	9	9	3	1	2	3	3	1	0	0

《受け入れにくい時期》

4月		5月		6月		7月		8月		9月	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
20	19	12	9	1	1	1	4	5	4	10	17

10月		11月		12月		1月		2月		3月	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
13	6	3	3	6	10	8	4	13	15	17	17

受け入れやすい時期として6月後期を一番とし7月、8月、11月をあげている。受け入れにくい時期として保育園側の体制が整っていない保育始まりの4月、5月や保育の締めくくりの時期である3月、2月のほかに運動会など園の大きな行事がはいる9月や10月の前期などが目につく。幼稚園と比較したとき6月と11月は双方ともに受け入れやすい期間であり、4月、3月は受け入れにくい時期である。8月の夏休み期間は保育園にとっては受け入れやすい時期である。しかし少数の意見として、水遊びやお昼寝の活動が主な活動となり、多様な保育を経験する点ではこの期間の実習を疑問視する保育園もある。

(3) 学生（実習生）の心得について

服装として気をつけたい点は、保母職にふさわしいトレーナー、ジャージパンツなどの動きやすい服装、学生らしい髪型と服装、アクセサリ類（ピアス）は身につけない、爪は伸ばさないなどである。

行動や態度として気をつけたい事は「保母職の内容把握に積極的で、学生としての前向きな姿勢、学ぶ姿勢（実習目標）をもって積極的に行動する。」「実習生といえども子どもたちに大きな影響を及ぼすことが考えられ、保母職を希望する者であることが実習を受ける前提

である」とした厳しい意見もあった。また「自分勝手に判断せず、解らないことがあれば必ず保育者に聞いたり、子どもの目線に立っての言葉がけや幼い子どもたちの言葉であってももしっかり受け止める態度が欲しい」としている。そして行動としては「1に手をかけ、2に目をかけ、3に心がけ、態度としては1に汗を出せ、2に智恵を出せ、3に素直さを持つ」と実習生の積極的な学習意欲を望む意見が多く見られた。その他としては健康管理、一般的なマナー、掃除の仕方も大切としている。

実習園側に対して、実習を終えた学生に「実習を受けた感想はいかがですか。」と質問したところ「充実して楽しかった」学生が多い。また「自分の目標は達成できましたか。」に対して「まあまあできた」とし、余裕も見せている。そして「実際保育をし子どもたちとかわりあった感想はいかがですか。」に対して「積極的に関わりあった」と保育園実習にプラスの自己評定を下している学生が多かった。

実習を受けた感想

	1部生	3部生
苦痛であった	3.7%	4.4%
普通	25.3	36.8
充実して楽しい	71.0	58.0

実習目標の達成

	1部生	3部生
できない	3.7%	8.8%
まあまあできた	74.8	80.9
できた	21.5	10.3

実習中のゆとり

	1部生	3部生
大変であった	16.8%	17.6%
変化なし	9.4	4.5
余裕がでてきた	73.8	77.9

感想

	1部生	3部生
入りきれない	3.7%	4.5%
普通に接した	24.3	28.4
積極的に関わる	72.0	67.1

その他の実習の反省として、「後輩にアドバイスをするとするならばどんな点であるか。」と質問したとき、「積極的に子どもたちの中に入り、いっしょに楽しむ」をI部学生もIII部学生も第一に上げている。「笑顔で言葉がけをする」、「分からないことは先生に聞く」、「自分で目標をもって取り組む」、「健康管理」などもあげている。また「実習を終えた今、保育者として何が一番大事だと思いましたか。」の質問に対して学生は「子どもの立場にたって物事を見たり、捕らえたりする」、「子どもたち一人一人のことをよく理解する」、「積極的に行動する」とし、保育するにあたり子どもたちとの関わり方は指導者であっても実習生であっても同じ事を感じ、理解しているように思える。しかし実習生と保育園側では理解度がちがうのか、それとも実習生の考えが単に甘いのか行動や態度にはまだまだ気をつけなければならないことがたくさんあるようである。実習目標をはじめとしてもう一歩踏み込んだ実習指導が大切だと感じる。

(4) 事前の学習への要望について

①学生に望む事前学習として次のような事柄をあげている。

- ・教材を準備する。準備した教材を利用して子どもたちと一緒にやったり、子どもたちの前でできるようにしておく。そして一つ必ず自分の得意とするものを身につけておくことも大事である。教材として折り紙、紙芝居、ゲーム、手品、年齢にあった歌、手遊び、外遊び、集団遊びなどがあり、レパートリーをできるだけ多くもって実習することが大切としている。
- ・保育日誌や指導案の書き方を理解しておく。
- ・子どもの年齢別ごとの発達、特徴を理解しておく。特に実習担当する子どもたちを理解するためにもその年齢における保育指針の熟読をしておくことが望ましい。
- ・園生活に必要な曲などピアノ、電子オルガンの技能練習をしておく。
- ・実習に対する目標、何を習得するのか明かにし、積極的に取り組む姿勢と謙虚な態度を持って実習する。
- ・2週間の実習をやり抜く健康な体力と精神力。健康管理をしておく。
- ・保育園の概要把握をしておく。

②学生アンケートとの比較

保育園実習においても学生たちの殆どは教材を準備している。実習後の学生のアンケート結果によると、教材として一番多いものが「人形」の90.7%である。続いて「紙芝居」、「絵本」、「手遊び」となっている。「手遊び」は80.9%（幼稚園実習）から20.6%（保育園実習）に減少し、「人形」は10.6%（幼稚園実習）から90.7%（保育園実習）に増加した。また学生にとって準備しているつもりでも、実際実習をしてみた結果、思うようにいかず、「絵本や紙芝居の読み方」・「手遊びや歌」の保育者の指導方法がとても参考になったとあげている。また後輩たちへの教材準備のアドバイスのなかにも「手遊びや歌遊びを豊富にしておくこと」、「絵本や紙芝居の読み方の練習」、「自分で作った指人形や棒人形を保育に利用する」など実際に子どもたちの前でも演じられる実技練習を事前学習として必要だと指摘している。また指導案の書き方の理解不足もあげている。「保育案を書くとき困った点」として

保育教材（保育園）

%	1部	3部
絵本	33.6	13.2
紙芝居	79.4	80.9
手遊び	20.6	19.1
人形	90.7	77.9
その他	9.3	19.1

保育教材（幼稚園）

1回目	1部	3部
絵本	15.3	11.3
紙芝居	96.4	83.0
手遊び	57.7	35.8
人形	11.7	28.3
その他	6.3	11.3

（幼稚園）

2回目	1部	3部
絵本	29.8	20.9
紙芝居	88.3	81.4
手遊び	80.9	58.1
人形	10.6	20.9
その他	12.8	23.3

「各年齢によってどの程度のことができるか、興味があるかなど子どもの活動が予想できない」、「時間配分が分からない」、「導入の仕方・発展の仕方・援助の仕方が分からない」など実際の保育が予想されず、ねらいや主活動を何にするかさえ思い悩んでいるのが現状のようである。発達に関しての知識不足や教材研究不足も手伝って「書き方が分からない」という結果になっている。特に保育園は0才児からの乳幼児も対象として含まれ、年齢の幅や個人的能力の差が顕著に見られる。このため実習することによって子どもたちの様子や保育の仕方も分かり、自然に指導案の書き方も理解できるようである。学生自身とても参考になったとしている。

そして子どもたちの理解を深めるために保育指針の熟読や実習を受ける保育園の教育目標や環境などもしっかり把握することも事前学習として大切とした保育園側の意見も見逃さない。

(5) 実習指導への要望について

①本学の事前事後指導の実際

- 1) ビデオ教材を利用して保育園を知る。
- 2) 保育現場の主任や園長を招き保育園の子どもたちの生活や実習の心構えなどの話を聞く。
- 3) 積極的に実習できるように実習の目的をしっかりと考えさせる。そして紙芝居や絵本など友達どうし読みあったり、指導案や実習日誌の書き方なども指導する。
- 4) 実習する前に腸内細菌検査、病原性大腸菌O-157の検査を受ける。

②園側の要望

- ・岐阜聖徳学園大学短期大学部の学生のよい面はパネルシアターや紙芝居ができることだと思う。10分程度園児全員に向けてできるものを身につけるとよい。
- ・年案、週案、日案、日誌などの書き方が意外に分かっていない実習生が多い。書き方の指導をして欲しい。
- ・ビデオや学外講師を招き、援助の仕方、喧嘩したときの対処の仕方や保育の導入の仕方など保育現場に密着した内容も取り入れると興味をもって勉強ができると思う。
- ・学生が子どもと保母になり遊び、歌の指導、保育の導入、紙芝居や絵本読みなど実際にやり会う機会を作ってみてもいいと思う。
- ・弾き歌いができるようにして欲しい。ピアノが上手でも実践に役立っていない学生がいる。
- ・実習するという姿勢が育っていない。また人間性を育てる指導も希望する。
- ・検便、レントゲンなど行って欲しい。園児たちの健康安全に注意したい。
- ・保母の仕事だけではなく給食の用意や掃除などなんでも実習するという心構えが欲し

い。

本学の実習指導に対してこのような意見・要望が寄せられた。事前学習として取り上げる項目として、教材研究・実習する姿勢・保育案の書き方指導などが主なものである。今後も養成校と保育現場の連携をさらに強め期待される保育者を養成したい。

V お わ り に

今回の調査は、本学の学生の実習をお願いしている幼稚園・保育所・児童福祉施設に対して実習全般に渡って率直なご意見をいただくことを目的としたものであった。その中には、学内の事前・事後指導だけでは見落としてしまうような細部にも適切な助言をいただくことができた。そのことは、受け入れ施設の先生・職員の皆さんが実習生に対して温かくまた厳しくご指導していただいていることを示していると改めて感ずることができた。施設側からの要望が今後の実習指導に役立てることができるかは、養成する側の我々に課された大きな責任と受けとめ、学生の指導にあたっていきたい。

ますます幼稚園教諭・保母（保育士）の資質の向上が求められる時代であり、養成校の責任と指導のあり方が問われてくるものと思われる。

最後に、今回の調査に快くご協力をいただいた各施設の先生方に対し、深くお礼申し上げます。

注

- 1) 「調査研究協力者会議」は、平成8年8月に発足した教育課程審議会における審議と連携を図り、時代の変化に対応した今後の幼稚園教育の在り方について、教育内容及び幼稚園運営や教育環境などいろいろな面にわたり基礎的な調査研究を行ってきた。平成9年11月にはその最終報告が出されている。
- 2) 現在では、保育に携わる男子の「保母」が相当数に上り、「保母」という名称で呼ばれるよりも「保父」と呼ばれることが多い。履歴書等の公式文書には、男子であっても「保母」と書かなければならず、男子保母の名称の創設が望まれていた。今回の児童福祉法の改正に伴い、男子、女子を問わず「保育士」という名称に改められた。
- 3) 平成9年8月に文部大臣から「幼児期からの心の教育の在り方について」の諮問を受け、平成10年6月「新しい時代を拓く心を育てるために」一次世代を育てる心を失う危機（答申）が中央教育審議会から示された。
- 4) 仲野悦子等「実習に関する学生へのアンケート調査—よりよい実習指導にむけて—」『聖徳学園女子短期大学紀要 第29集』1997 pp.79-116
- 5) ここでは、児童福祉法で示された児童福祉施設のうち、保育所を除くものをさしている。

4、実習前に学習させておかなければならない事柄はどのようなことですか。

〔 〕

5、現行の3部学生の実習形態に対してご意見をお聞かせください。

〔 〕

6、3部生の実習に対して今後どのような方向に進めて行ったらよいとお考えですか。

〔 〕

7、本学の実習指導に対してどのようなことでもよろしいのでご意見、ご要望をお聞かせください。

〔 〕

ご多忙のところご協力、ご指導いただきましてありがとうございました。
今後ともよろしく願い申し上げます。

実習委員一同

時代の要請に応える保育者養成研究

資料2) 施設へのアンケート

学生の実習について日頃より感じられていること、実習に対するご意見をお聞かせください。

(適当と思われる箇所に○をつけてください)

施設名

1、本学では施設実習期間を10日間としております。施設側として期間についてのご意見をください。

(1)10日間 (2)一週間 (3)2週間 (4)その他()

2、実習生の受け入れ人数についてお尋ねします。

(1)現状でよい ()名 (2)増えてもよい ()名

(3)現在より少ない方がよい ()名

3、施設実習は宿泊を原則としております。通勤希望の施設もありますが今後実習のあり方としてご意見をお聞かせください。

(1)宿泊実習がよい (2)通勤実習がよい (3)学生の希望でめ

ご意見

4、実習指導していただく1日の時間について、学生の健康面も考慮にいれて何時間程度が適当とお考えですか。

(1)8～9時間 (2)9～10時間以内 (3)10～11時間

5、実習生の宿泊場所についてお尋ねします。

(1)ゲストハウス (2)寮の一部を利用 (3)事務棟を利用 (4)その他()

6、宿泊の設備の有無について該当するものに○をつけてください。またご意見がありましたらお書きください。

(1)お風呂 (2)洗面所 (3)キッチン (4)冷房 (5)暖房 (6)洗濯機 (7)物干場 (8)テレビ (9)その他()

ご意見

7、実習生一人あたりの実習費についてお尋ねします。

(1)宿泊費 () (2)光熱水費 () (3)給食費 ()

(4)施設で照会される本などの費用 () (5)その他 ()

8、オリエンテーションはいつ頃受けさせたらよいとお考えですか。

(1)2カ月前 (2)1カ月前 (3)10日～2週間前 (4)その他

裏面に続きます

9、実習施設の種類の多いため、観察日誌の書き方指導は共通の内容でおこなっています。ご意見をお聞かせください。

10、各施設共通して必要な携行品を持って行くよう指導しています。施設として特に必要な品をお知らせください。

11、厨房実習についてお尋ねします。

(1)実習している

(2)実習していない

ご意見

12、1日休みについてお聞かせください。

(1)自由

(2)制限がある (具体的にお書きください)

13、本学では腸内細菌検査として現在赤痢菌・サルモネラ菌の検査を実施しています。今後0・157の検査についてご意見をお聞かせください

(1)必要あり

(2)必要なし

(3)社会の状況をみて実施する

14、実習の評価に対して県内の養成校で検討中ですが、本学では優・良・可の評価をしています。施設側としてご意見をお聞かせください。

15、本学の施設実習指導についてご意見・要望などをお聞かせください。

16、本学では施設実習後施設へ就職を希望する者が多くなってきています。施設職員を採用されるときどのような人材を求めておられますか、ぜひお聞かせください。

ご多忙のところご協力・ご指導いただきましてありがとうございました。

今後ともよろしく願い申し上げます。